

# トビガス残土置き場候補地に関する要望書

大鹿村村長 柳島貞康 様

2018年11月5日

大河原2208 TEL 39-2067

大鹿の十年先を変える会

常日ごろから住民生活の安全・向上にご配慮いただきありがとうございます。私たちはリニア新幹線計画の実施に伴う自然環境・生活環境の改変を注視し、大鹿村の豊かな自然を残して活かす村づくりを目指す有志の団体です。

この間、リニア新幹線のトンネル掘削に伴う排出残土の大鹿村内の置き場計画が進められ、すでに大鹿村のグラウンドとろくべん館前の土地に、残土が置かれはじめています。私たちは、これらの計画に対して強い危惧を抱くとともに、不用意に残土を河川敷に置くことについては反対を表明し、広く住民の意見を求めるよう求めてきました。

この度、既存の残土置き場候補地のほかに、トビガス崩壊地の下部に残土置き場計画が公表されていることに対し、私たちは以下の理由からあらためて反対を表明し、計画の中止を求めます。

## 1 河川の流路を狭めることによって下流域の災害の危険を増す

計画予定地は、トビガスの崩壊地から流れ込む沢が、小渋川と合流する地点にあります。今回盛土が計画されている個所は堆積した砂州の上部です。地下水位は河川同様の高さで、トビガスの流出水の影響もあって、流出の可能性はもともと高い地域です。地震時には液状化や流動化によって崩壊する可能性が高まり、擁壁などが役に立たない恐れがあります。

また、すでに対岸にはリニアトンネルの掘削に伴う仮残土置き場に土が積まれており、この受け入れ先は現在稼働している村内2カ所以外は未定です。この仮残土置き場の土をトビガス下の予定地に移動させても、掘削を続ける限り、その期間は両岸に盛土が関所のように積まれることとなります。豪雨時にこの両岸の盛土部分で小渋川がせき止められれば、堰止湖の崩壊によって下部の大河原地区中心市街地を土石流が襲うこととなります。あえて災害を招くような計画は危険であるだけでなく、無謀です。

さらに、トビガス崩壊地は、長年にわたる砂防事業が進められてきました。この砂防事業は、トビガス崩壊地からの土砂崩壊を食い止めるためですが、それは以上述べたような下流に対する被害を抑止することが目的です。何のための砂防事業だったのか疑問を抱かざるをえません。

対岸の小渋川右岸は、トビガスから流出した堆積土によって小渋川の流路が右岸側に過去変わってきたため、河川周辺の田んぼや集落下部の斜面が削り取られてきた歴史があり、それを防止するために砂防工事がなされ、計画予定地周辺の両岸に保安林が指定されています。そこに土を盛れば、こういった過去の防災事業の目的と相反するだけでなく、現在の防災効果をも損ないます。この点についての説明のない計画は、将来の住民生活の安全を損なうものです。

あらためて言うまでもないことですが、村内に限らず小渋川流域の砂防事業は、小渋ダムも含めて下流域の災害予防を目的としています。この目的のために、桶谷集落160名余は涙を呑んで犠牲となりました。今回のように、村当局の手で下流域の安全を損なうような計画が提示され

たことに対して、先祖伝来の土地を離れたかつての桶谷集落の住民は「いったいなんのために」と思わないでしょうか。

## 2 景観破壊、ユネスコエコパークに不適切な計画

大鹿村は、公園整備を目的に、残土を利用した予定地周辺の開発を行う予定です。しかしながら、一口に「公園」と言った場合、自然公園であれば現在の環境の成り立ちこそが利用者にとってのサービスそのものなので、あえてそこを開発して価値を損なう理由が成り立ちません。なによりも、現在の景観は自然の歴史の結果なので、そこを損なうことは、自然破壊であると同時に景観破壊です。

一方で、都市公園であった場合、誰を対象とし、何をそこに作り、どの程度の利用見込みがあり、開発によってどのようなメリットを利用者と住民が得られるかの説明がなければ、いたずらに現在ある自然環境を破壊してまでそれを建設する目的が見出せません。将来村が不採算事業を抱え込み、住民がそのしりぬぐいをするにもなりえます。

特に大鹿村は、ユネスコエコパークに自ら名乗りを上げて登録し、「日本でもっとも美しい村連合」にも加盟しています。現在の自然環境の持続可能な利用を対外的に約束しています。その点からも、「公園にするから」といっても、開発行為が伴う以上、その目的、効果については厳しい説明責任があります。この点についての説明のない現在の計画は、自然という将来の村の財産を損なうことにつながり、反対せざるをえません。

## 3 村外残土置き場の未確定、JRの計画自体の先行き不透明

南アルプストンネルから排出される、村外の残土置き場がいまだ一カ所も決まっていないことは周知の事実です。そのような状況で村内のみに残土置き場を用意し、実際問題計画がとん挫したとき、村内には行き場のない残土の山と掘りかけのトンネルが残されます。村外での計画があちこち挫折しているのは、予定地周辺の住民が残土を不用意に谷や河川敷を埋めて置くことは防災上危険だと気づいたからです。村外で危険なことは村内でも危険です。JRの計画が予定通りに進む根拠が何もない以上、小渋線の工事車両台数を抑制するための環境対策といった理由が正当化される理由はどこにもありません。また、村内で甘い環境対策のもと工事を進めさせて先例とすることは、他自治体が厳しい環境対策を取る際の障害となり、他自治体の住民に迷惑をかけることにもなります。

このような状況の中、「置き場がないから」というJRの都合で大鹿村だけが残土置き場の幹旋に動けば、リニア工事による環境破壊、生活破壊の影響を沿線各地の中で、大鹿村だけが負うことにもなりかねません。少なくとも、村外に残土置き場予定地が確保されていない現状で、大鹿村内でこれ以上残土置き場予定地を増やすことは賛成できません。仮にこのような対策・議論が必要であっても、村外に残土が排出される予定が経ってから計画を進めても何も遅くありません。

以上述べて、私たちはトビガス沢下部の残土置き場計画に反対します。

また、上記の各理由づけについては、既存の村内残土置き場各所にもあてはまり、特に防災上の理由については、日々、周辺及び下流域の住民の生命財産を危険にさらしています。私たちは稼働中のものも含め、既存の残土置き場計画に対して同様の理由から反対せざるをえません。上記各点に関して、明確な説明を求めるとともに、納得のいく説明のない計画の中止を求めます。